会　　議　　録

会議の名称	**平成26年度　第３回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会**
開催日時	平成27年　３月　24日（火） （午前・午後）　10 時　　開会 （午前・午後）　正午　　閉会
開催場所	茨木市役所　本館７階　会議室
議　　長	中森　孝文 氏　（龍谷大学 政策学部 教授）
出　席　者	中森孝文氏（龍谷大学 政策学部）、野口義文氏(立命館大学　研究部・産学官連携戦略本部)、近藤正典氏（中小企業診断士）、小林豊和氏（茨木商工会議所）、矢永住夫氏（北おおさか信用金庫）、前田幸子氏（商業事業者）、 高石秀之氏（工業事業者）、西村庄司氏（農業事業者）、大川智恵子氏（公募市民） 山田理香氏（公募市民）　(10人)
事務局職員	徳永商工労政課長、村山商工労政課商工振興係長、河原商工労政課企業支援係長、白木商工労政課職員、武部商工労政課職員、 三菱UFJリサーチ&コンサルティング　美濃地　（６人）
議題(案件)	(1)平成26年度の推進事業の結果について (2)アクションプランの見直しに向けて
配布資料	・資料１　平成26年度の推進事業について ・資料２　茨木市第５次総合計画と産業振興ビジョン・アクションプランの相関図 ・資料３　（仮）ワークショップにおける検討の枠組みと事業アイデア（例） ・資料４　平成27年度 産学連携スタートアップ支援事業補助金について

議事の経過

１ 開　会

事務局：委員の交代について報告（小牧委員→矢永委員）
委員長：（開会のあいさつ）

２　平成 26 年度の推進事業について

事務局：（　資料１説明　）

＜質疑・意見等＞

Ａ委員：(1) 産学連携について（企業訪問活動の報告から）
全国的に「連携における大学側の窓口がわからない」というのは共通の問題点。
４月から開設する立命館大学大阪いばらきキャンパスでは、１階に商工会議所が入り、同じ建物の５階に産学連携の窓口があるので、上手く連携をとり、全国における成功事例にしていきたいと考えています。

(2) ビジネス交流会について
今後求められる人材は、「コミュニケーション力」があることが大切だと思います。市民や学生など、いろんな人を巻き込んで実施するのも有効だと思います。

(3) 提案公募事業の創設について
「産学連携スタートアップ支援事業」について“市内大学以外との連携も補助対象にできるよう制度を拡充する”というのも１つの考え方ですが、拡張に力を入れすぎて、市内大学との連携が希薄になってもいけないので、濃淡をつける方が良いと思います。

(4) 茨木ブランドの創出と発信について
「茨木おいもスイーツフェア」は良い取組だと思います。女性や子どもが参加できるイベントは家族等も加わり、多くの参加が期待できます。基本的には「さつまいも」をキーワードに据えて実施していくのが良いと思います。

Ｂ委員：「ビジネス交流会」などは、知っていると何らかのかたちになっていくと思います。
どのように集客しているのですか。

Ｃ委員：チラシを配布しています。

Ｂ委員：どのような広報が効果的なのでしょうか。

事務局：「まちのにぎわいづくり連絡会議」などは、広報誌に掲載しております。

委員長：広報誌への掲載時に、参加者や採択者などの体験談を掲載していますか。

事務局：制度やイベント等の案内が主で、体験談等は掲載しておりません。

委員長：全部掲載するのは大変ですが、どれか１つでも掲載してはどうでしょうか。
その際に、“読んで面白い”など、表現することが重要だと思います。

事務局：広報誌には、何年かに１度、産業関係の特集記事を掲載しています。その際には、補助制度をご利用いただいた方の声などを載せていますので、今後も続けていきたいと思います。
　また、広報誌の『頑張る市内企業』というコーナーで、２ヶ月に１度、個別企業の記事を掲載しております。

委員長：市民の方々の目に留まり、読む気が起こるように、できるだけ“やわらかい”書き方を心がけると良いと思います。

Ｄ委員：産学連携について、今年度も興味を示している企業があります。

委員長：産学連携は、技術系に限らず社文系の分野との連携もあると思います。

Ａ委員：「産学連携」は、もとは大企業と大学との連携から始まりましたが、中堅・中小企業と連携していこうという機運が大学側にも高まってきています。

委員長：商工会議所とも上手く連携すると良いと思います。
　「茨木スイーツフェア」等の事業やイベントは地域の住民や経営者たちが主体的に参加しようとする機運を盛り上げることが大切です。アイデアを出すためには主体性が大事だと思います。
　「さつまいも」というキーワードで他の人もアイデアを出し合えるようにして、町おこしにつなげていくよう、地域の人々が知恵を出し合うことが重要です。

３　アクションプランの見直しに向けて

事務局：（資料２・３説明）

＜質疑・意見等＞
Ａ委員：資料２にある「茨木市第５次総合計画」と「産業振興ビジョン」、「産業振興アクションプラン」、それぞれの計画期間との関連を確認したいと思います。

事務局：「茨木市第５次総合計画」は平成 27 年（2015 年）から平成 36 年（2024 年）までの、市全体に係る計画です。
　「産業振興ビジョン」は、平成 22 年（2010 年）４月にスタートし、おおよそ 10 年先をイメージした産業振興の指針です。
　また、「産業振興アクションプラン」は平成 23 年（2011 年）４月にスタートし、平成 27 年度（2015 年度）で５年目を迎えます。５年間のアクションプランの進捗や課題等も整理して、平成 28 年度（2016 年度）からの計画をつくりたいと考えています。

Ａ委員：資料３の★印の項目は大学としても進めていきたいと思います。

Ｆ委員：もっと具体的に示したほうが理解しやすいのではないでしょうか。

委員長：近年は、６次産業化などで農業の重要性が謳われることもありますが、このアクションプランに農業に関連する内容は入っているのですか。

事務局：農業そのものの振興や農業施策に踏み込むことは、アクションプランの中では想定しておりません。

Ｅ委員：前回の委員会で「〇〇のまち　いばらき」のように、分かりやすい決め方が良いのでは、という話が出たと思いますが。

委員長：「まちの強み・特徴」から産業を振興するまとめ方もあるのでは、という意見ですね。

Ｇ委員：基本的に求めていることは、「茨木で暮らすことが充実している」こと。
　そのためには、それを支える商業、工業、農業すべてが機能していなければ、商業者、企業が元気でなければ、まちの元気も魅力も出てきません。
　１番の基本は「人」だと思います。人（商業者、事業者）のやる気をいかに引き出していくのか、どのようにアクションプランに書き込むことができるのか、検討する点だと思います。

Ｈ委員：企業と市民を完全に分けてしまい、“市民はあくまで参加する立場”とする考えもあるかもしれませんが、市民と事業者をつなぎ、連携を進めることも重要ではないかと思います。

Ｂ委員：茨木市は南北に農地があり、それを活かした取組みの中で何かをブランド化するような活動があれば、市民も参加できるので、そういったことができないかと思います。
　学生の方に使ってもらえれば産学連携にもつながる可能性もあると思います。

Ｃ委員：産学連携は力を入れなければならないと思います。
　創業者を増やすことも重要です。創業が増えると雇用が増える可能性もあります。
　もう１つ、ビジネス交流は必要。これまでの経験から、この３つは外せないと思います。

Ｉ委員：「地域住民」と「地域市民」という言葉を使った文章があります。
　「地域住民」は地域に住んではいるが寝に帰るだけの人、「地域市民」は地域のために何かアクションを起こそうとする人（企業を含めて）のことです。「地域市民」を教育し、たくさん作っていくことが、私たちの役割だと考えています。

委員長：地域市民ができるだけ関与し、地域のために知恵を出して動いてくれるようになる仕掛け、あるいは、愛着を持って、価格だけではなく、「どうせ買うならここで買う」と思ってもらえるようなことを商店街は考えなければならないと思います。

Ｅ委員：「〇〇のまち　いばらき」など「これが茨木らしい」と持っていければ良いと思います。

Ａ委員：これまでの議論にもありましたが「市民」参画は必要だと思います。市民にアイデアを出してもらう機会（イベント）も良いかもしれません。

委員長：今すぐに茨木市の強みを決めきる必要はありませんが、何らかの特徴があるはずです。そのポテンシャルを丁寧に調べるような活動をアクションプランの施策の中に入れても

良いのではないでしょうか。
　アクションプランについては、また次回、議論したいと思います。

４　その他

事務局：平成 27 年度　産学連携スタートアップ支援事業の募集について
（　資料４説明　）

次回の日程について
　４月 23 日（木）午前 10 時を予定。